

SHIRAKOBATO

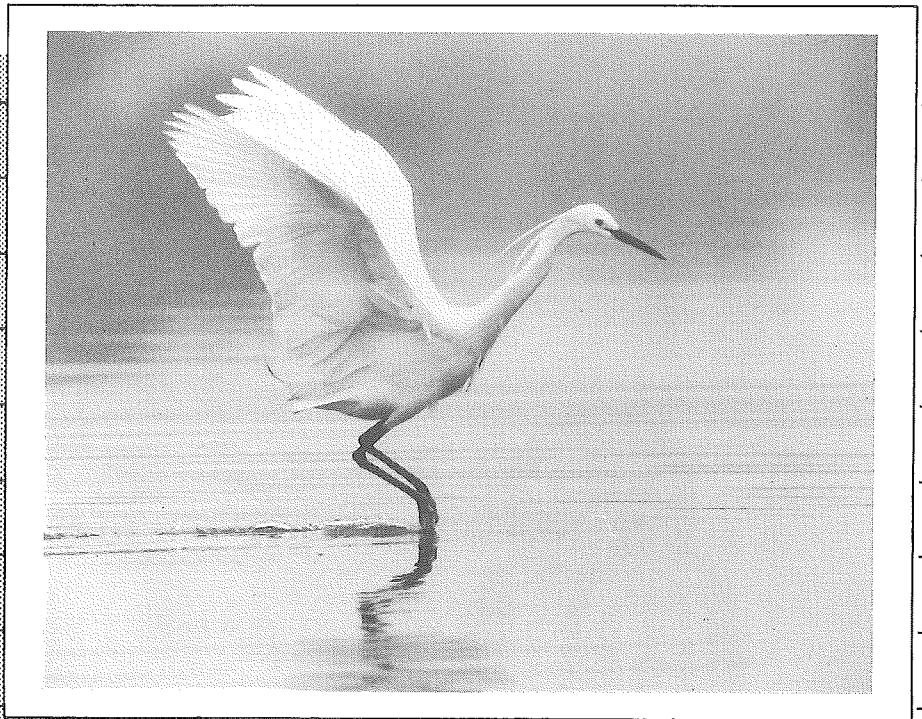
しらこぼと



1994. 4

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 120

日本野鳥の会埼玉県支部

人類の未来と生態学

セタイガクって、ナニ？ そのあたりのことを、これでも平易に、研究部長さんに語ってもらいました。

生物学の方法論の欠陥

自然環境を調べる学問は生物学の中でも特に生態学（エコロジー）です。従来、生態学を含めた生物学は、研究の進め方、方法論として「メンデルの法則」の発見に見られるように、実験データや野外での観察データを基にして、平均値、分散、偏差値、回帰検定などの統計的な手法を使って、様々な法則を導き出してきました。少し荒い言い方をすれば、データの山の中から、統計と呼ばれる道具を使って、闇雲に法則を作り上げていく様なものです。このため、同一のデータから全く異なった結論が導き出される事も、しばしばあります。公害裁判におけるデータの原告側と被告側の正反対な解釈が、そのよい例です。このような生物学の方法論の欠陥は、基本となる統一的な視点に立つ体系的な理論が無い事に起因しています。これに対し物理学は、G・ガリレイやA・ニュートン以来、数学的な枠組みを使って、統一的な視点に立つ体系的な理論を構築して来ました（小荷田1991b）。このため物理学を使えば、ロケットの軌道の様な物理的現象は予測が可能となります。しかし、ほとんど統計的手法のみによ

る生物学の方法論では、同一のデータで全く異なる結論が導き出されるような結果となってしまう。

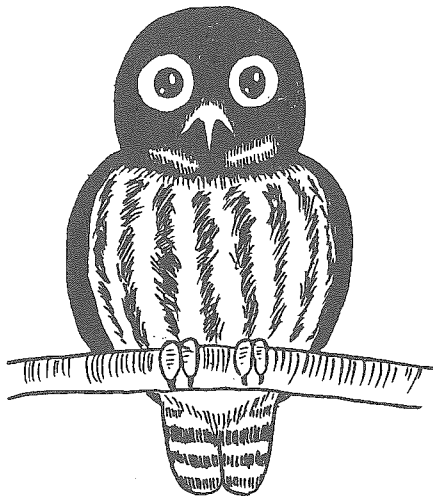
生物学のこのような理論的枠組みの欠陥にいち早く気が付いたのは、生物学の諸分野の中でも特に集団遺伝学のR・A・フィッシャーや生態学におけるV・ヴォルテラなどで、ともに1930年代です。しかし、この当時は生物学に統計的手法を取り入れる事が始められたばかりであり、その後の生物学は統計的手法を使いこなすのに手いっぱいの状態でした。

理論生物学の誕生

1970年代に入り、生物学は研究者の地殻変動が激しく起りました。生物物理学と言う名で物理学者、生物の種間や個体間の進化戦略を扱う進化生態学や遺伝子の変位を扱う集団遺伝学の分野におけるモデル化を行なう立場での数学者、生体系の情報処理を扱う工学者など、様々な分野の研究者が生物学に参入して来ました。日本人の例では、物理学者の大久保明や寺本英、数学者の山口昌哉、工学者の甘利俊一などが知られています。このような状況で、物理学で行なわれている様な数学的なモデルを立て、それに基づいて理論を構築してゆく「理論生物学」が誕生しました。その輝かしい成果のひとつが、C・ダーウィン以来の進化学の業績と言われる木村資生の「分子進化の中立説」（木村1986）です。

未来を予測する生態学へ

生態学の分野では、コントラクト・ブリッジなどのゲームの戦略を考える数学理論である「ゲームの理論」を基礎にした種間、個体間の競争を扱う進化生態学（J・メイナードスミス1985）、生態系の時間軸、空間軸のダイナミクスを微分方程式で書き下ろし、未来を予測する数理生態学などが近年活発に研究されつつあります（巖佐1990）。



（4月下旬ごろ、会いましょう）

動物生態学の分野では、ある地域に侵入した種の拡散や他種との競合関係を論じる数理動物生態学(重定1992)が活発に研究され、これらの成果は野生動物の保護管理方法の策定に応用することができます。

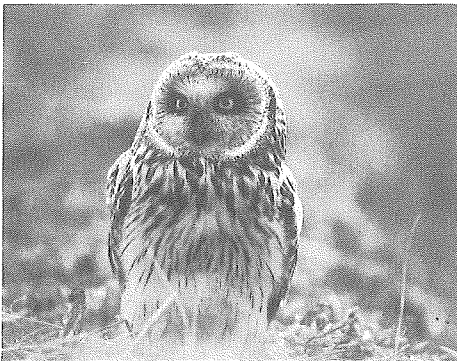
植物生態学の分野では、様々な群落からなる森林の動態をモデル化し、森林の遷移の過程を数量的に明らかにしようとする試みが始められています(平田、箕輪1991)、(小荷田1991)。これは天然林や人工林における森林の施業、保護管理方法の策定に応用されることが期待されています。

テレビの自然番組のように、様々なデータや現象の羅列や定性的理論にすぎなかった従来の生態学は、数学的モデルを設定し、スーパー・コンピュータなどを駆使して未来の自然環境を予測できる学問に変身しつつあります。これは生態学が数学的枠組みを持ったモデルを持つ確固たる理論に立脚した学問「理論生態学」へ生まれ変わった証です。

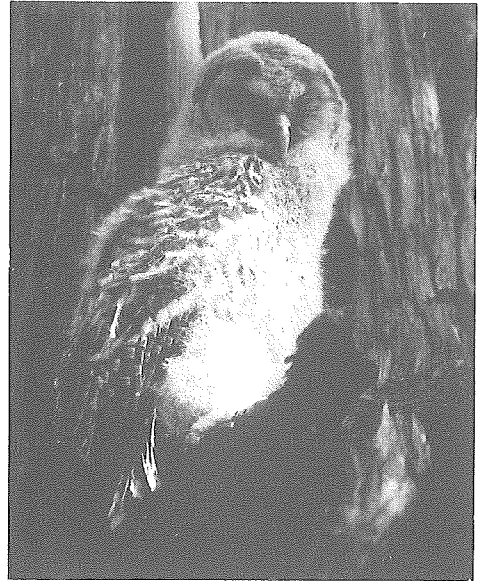
人類の未来と生態学

1970年代、日本が公害列島と呼ばれていた時代、生態学はそれを調査研究する手段としてもてはやされた事がありました。しかし、しっかりとした理論的な枠組みを持ち得なかった生態学は、公害裁判に見られるようにあまいな成果しか提示し得ませんでした。

20世紀の世紀末に至り、熱帯雨林の減少、酸性雨による森林の破壊、オゾン層の破壊、大気中の二酸化炭素濃度の増加など、宇宙船地球号は、これまでにない生態学的な危機状態にあります。水道水がまずくて、浄水器を通すかミネラル・ウォーターを使わなければなら



(コミミズク 野川一臣)



(フクロウ 金井祐二)

ない今日の日本の都市の飲料水の状況も、過密化した都市の持つひとつの生態学的な危機の現われです。直接、間接に自然環境に影響を及ぼす可能性のある経済社会行為は、自然環境に対する影響を真の意味で「アセスメント」した後でなければ開始し得なくなります。「アセスメント」を無視した後にやってくるのは、種としての「ホモサピエンス」の死です。

現代の生態学的な危機状態に必要なのは、真の意味のアセスメントが行ない得る確固たる枠組みを持った生態学です。それは生態系の時間的、空間的なダイナミクスを数量的に把握できる理論体系を作る事です。現在の「理論生態学」の状況は、その入り口に立ったばかりです。(小荷田行男)

文献

- メイナードスミス, J. 1985 進化とゲーム理論 一闘争の論理一 紀伊国屋書店 東京
- 木村資生 1986 分子進化の中立説 紀伊国屋書店 東京
- 巖佐 庸 1990 数理生物学入門 一生物社会のダイナミクスを探る一 HBJ出版局 東京
- 小荷田行男 1991a 針広混交林における森林生態系基礎方程式の構成 ワイルドライフ・レポート No. 13 30~41 野生生物情報センター 札幌
- 小荷田行男 1991b 自然科学観の変遷と情報社会 基幹技術研修報告 第21巻第11号 高度情報化社会の理論 187~229 日本電気技術研究所 東京
- 平田泰雅, 箕輪光博 1991 天然林の成長に関するシステム論的研究 演習林報告 No. 86 33~75 東京大学農学部附属演習林 東京
- 重定南奈子 1992 侵入と伝播の数理生態学 UPバイオロジー・シリーズ 92 東京大学出版会 東京

野鳥記録委員会情報

●コホオアカ

1993年12月25日午後、戸田市道満の荒川第一調節池の草原（タイヌビエの群落）でコジュリンをカウントしていた有山智樹会員が枯れ草にとまるコホオアカ1羽を発見。連絡を受けた海老原美夫会員が12月31日にビデオ撮影（右）した。1月2日が終認。

過去県内で観察を報告されたこともあるが、識別可能な写真や映像に写されたことがなく、今回が初の確認記録となる。



地鳴きコーナー

我が家では…

大嶋巳恵子（熊谷市）

我が家では『しらこぼと』が届くと、どこに行こうかと皆で話し合いをするのがとても楽しみです。5年になる娘（恵里菜）と主人はよく探鳥会に行きますが、3年になる息子（暁）は、私が行かないと行きたがらず、2対2に別れて過ごすことがよくあります。

探鳥会がイマイチの息子が、どういうわけか鳥の絵が好きで、テレビを見ない夜は、ひとりいろいろな鳥を描いて楽しんでいます。

親バカですが、私が入り込んでしまっ、息子と話しあい、「送ってみようよ」ということになりました。

自然を愛する思いやりのある人になってほしいと思っています。



（大嶋 暁）

私流・英語名での鳥の楽しみ方

滝田美恵子（東村山市）

「白頭ワシの英名講座」を楽しく読んでいます。

それで私も図鑑を開くとき、英語の鳥名にも目を向けるようになり、いろいろイメージを広げています。

たとえば、Brown-eared-Bulbulは、「茶色の耳のブルブル」。庭の餌台にとまり、ここは我がナワバリとばかり羽を震わせ、他の小鳥を威嚇している茶色の顔のヒヨドリのこと。

私の好きなキビタキは、Narcissus-Flycatcher。ギリシャ神話に出てくる、池に映った自分の姿に恋いこがれて、水仙の花になったあのうぬぼれ屋のナルシスの名がついています。それほどあのキビタキの姿は美しく、美の究極といえるのかも知れません。

サンコウチョウは、Black-Paradise Flycatcher。なかなかこの鳥を見られず、鳥仲間からは、運の悪さをなかばあきれられて、肩身の狭い思いをしていた私ですが、鳥歴6年にして初めてこの鳥に遭遇した時は、「パラダイス」な気分になりました。

あのくちばしとアイリングのコバルト色を見た時の衝撃は、おおげさに言えばこの世のものではない、まさに「極楽浄土」にいる気分でした。

識別で役に立つのは、アカゲラとオオアカゲラ。背中に白い「ハ」の字模様のアカゲラ

は、Great Spotted Woodpecker。「大きな点を持ったキツツキ」です。

オオアカゲラは、White-backed Woodpecker。「背の白いキツツキ」。飛び立つ時見てください。腰の白いのが分かります。

私は、こんな調子で、図鑑の英名を見ながら「鳥」を楽しんでいます。

マーフィーの法則・鳥見人編

内藤義雄（鴻巣市）

「マーフィーの法則」という本がベストセラーの上位にランクされている。細かな事は省略して一言で述べると、日常生活・仕事の中で起きる皮肉な現象の格言？集と思えばよいでしょう。

遊びでトライしてみました。皆さんもいろいろ経験しているはずです。集めて「マーフィーの法則・しらこぼと編」でも出ませんか。

◇『しらこぼと』は見ていても、シラコバトは見えていない。

◇下見で見た鳥が、本番では出てくれない。
◇早起き一番でフィールドに行くと、もうだれかが来ている。

◇偶然に勝る珍鳥出現はない。

◇珍鳥の出現率は常に50%。出るか、出ないかだ。

◇じっと待っていた鳥は、一休みするとすぐに出る。

◇シャッターチャンスは、最後の1枚の後におとずれる。

◇用意万全で出かけると、雨は降らない。

◇三脚は、ゆるまぬはずのネジが、よくゆるむ。

◇毎日見ているも描けないのは、スズメ。

◇お目当ての鳥は、小枝がジャマをする。

◇鳥合せの後に、1種出る。

◇カウント調査の正確さは、天のみぞ知る。
（研究部さん、ごめんなさい）

◇あきらめて観察具をしまうと、すぐに鳥が出る。
などなど。

■はみだし行事案内■

茨城県・浮島湿原探鳥会（要予約）

期日：6月4日（土） 日帰り

集合：午前7時 大宮駅西口あさひ銀行前

交通：8,000円の予定（交通費、保険料等。

万一過不足は当日清算）

定員：25名（先着順、県支部会員優先）

担当：中島（康）、小林（み）

申込み：通常葉書に、探鳥会名・住所・氏名・年齢・電話番号を明記して、中島康夫（ ）まで。

見どころ：昨年大好評をいただいた浮島ならではの出会いが楽しみです。コジュリン・ココシキリ・オオセッカ、それにオオヨシゴイなどが期待できます。

長野県・戸隠飯綱高原探鳥会（要予約）

期日：6月4日（土）～5日（日）

集合：4日午前10時 JR長野駅改札口前

交通：特急「あさま1号」（上野7:00→大宮7:22→高崎8:10→長野9:51着）

費用：11,000円の予定（1泊3食、現地バス代、保険料等。万一過不足は当日清算。集合地までの往復交通費は各自負担）

担当：菱沼（一）、草間、伊藤、榎本

申込み：往復葉書に、住所・氏名・年齢・性別・電話番号を明記して、菱沼一充（ ）まで。

見どころ：野鳥三昧、そば三昧！ クロツグミ・キビタキ・オオルリ・クロジ・マミジロなどの姿とコーラスを求め、若葉青葉の森や高原を歩きます。夜は地酒で乾杯！

注意：宿は男女別の相部屋です。

カンムリカイツブリ ◇12月3日、戸田市道満荒川第一調節池で1羽(横山初夫)。◇12月16日、狭山市の入間川、広瀬橋付近で1羽(岩渕茂雄)。
 コハクチョウ ◇12月12日、川本町の荒川明戸堰上流で72羽(菱沼一充)。
 アメリカコガモ ◇1月15日、本庄市の阪東大橋下流で♂1羽(古澤紀)。
 トモエガモ ◇12月19日、戸田市道満荒川第一調節池で♂3羽♀2羽(高橋達也)。
 ◇1月19日、本庄市の阪東大橋下流で♂1羽(古澤紀)。
 ヨシガモ ◇12月30日、川本町の農林公園ヨシ沼で♂2羽(菱沼一充)。
 オカヨシガモ ◇11月26日、狭山市の入間川広瀬橋付近で♂♀各1羽(岩渕茂雄)。
 アメリカヒドリ ◇12月11日、富士見市の新河岸川岡坂橋上流で♂1羽(中司隆由)。
 スズガモ ◇12月11日、上尾市の丸山公園で♀1羽。カイツブリ7~8羽と一緒に行動し、頻りに潜っていた(鈴木博志)。
 ホオジロガモ ◇12月8日、戸田市道満荒川第一調節池で♀1羽(横山初夫)。
 ミコアイサ ◇12月12日、川本町の荒川明戸堰上流で♀1羽(菱沼一充)。◇12月25日、所沢市の松ヶ丘遊水池で♂3羽♀11羽(遠藤薫)。
 カワアイサ ◇12月12日、川本町の荒川明戸堰上流で♀4羽(菱沼一充)。
 オオタカ ◇1月1日、坂戸市の高麗川城山橋上流の左岸、崖の樹上で1羽(増尾隆・節子)。
 ツミ ◇11月21日、大宮市堀崎町の上ノ台公園上空で1羽(藤原寛治・真理)。◇12月12日、滑川町の森林公園、北口レストラン付近の樹上で♀1羽(藤原寛治・真理)。
 ハイタカ ◇1月1日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(田口浩司)。
 ノスリ ◇12月16日、浦和市秋ヶ瀬で1羽(横山初夫)。
 チョウゲンボウ ◇12月5日、坂戸市の高麗

川森戸橋上空で1羽。カラス5羽にモビングされていた(増尾隆・節子)。
 ウズラ ◇12月26日、戸田市道満で1羽(高橋達也)。
 キジ ◇1月1日午後3時15分、坂戸市の高麗川城山橋上流で♂1羽。オオタカに追われて、左岸の崖から右岸に「ケンケン」と鳴きながら逃げてくる。スリリングなシーンでした(増尾隆・節子)。
 タゲリ ◇1月5日、飯能市下加治の休耕田で10羽(古澤紀)。◇1月13日、幸手市木立のB&Gセンター前で1羽(田畑孝)。
 ハマシギ ◇11月5日、川越市の伊佐沼で55羽(中司隆由)。◇12月11日、志木市の柳瀬川、高橋~栄橋間で75羽(中司隆由)。
 タシギ ◇12月5日、伊奈町の伊奈学園北側の水のない池で17羽(鈴木博志)。
 セグロカモメ ◇12月18日、志木市の柳瀬川高橋~栄橋間の中州でユリカモメの群れに混じって1羽。大きなコイに食らいつく(中司隆由)。◇12月18日、戸田市道満荒川第一調節池で4羽(横山初夫)。
 トラフズク ◇12月29日、妻沼町の防風林で1羽(堀口芳嗣)。
 ヒメアマツバメ ◇1月8日、鳩山町の鳩山ニュータウン上空で11羽。西方に飛ぶ(上田恵介)。
 ヤマセミ ◇1月1日、坂戸市の高麗川城山橋上流で1羽(増尾隆・節子)。
 カワセミ ◇12月25日、所沢市の松ヶ丘遊水池で1羽(遠藤薫)。◇1月3日、深谷市西島の造成中の池で1羽(園田恵子)。◇1月5日、飯能市下加治の用水路で♂♀各1羽。飛びかっていた(古澤紀)。◇1月12日、入間市の入間川豊水橋上流の笹井堰で♂1羽(古澤紀)。
 アオゲラ ◇12月8日、飯能市下畑の成木川周辺で1羽(藤森三治・恵美子)◇1月12日、入間市の入間川豊水橋上流の笹井堰で♂1羽(古澤紀)。
 アカゲラ ◇12月12日、秩父市の羊山公園で1羽(山岸昭治)。◇12月15日、飯能市下畑の成木川周辺で1羽(藤森三治・恵美子)。
 ◇1月1日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(田

口浩司)。

ショウドウツバメ ◇1月8日～9日、鳩山市の越辺川石今橋周辺で2羽(鳩山野鳥の会)。

イワツバメ ◇12月30日、熊谷市の三ヶ尻工業団地上空で4羽。巡回していた(山口輝雄)。

カヤクグリ ◇12月31日、寄居町の鐘撞堂山で2羽(田口浩司)。

ルリビタキ ◇12月12日、秩父市美の山で♀1羽(山岸昭治)。◇12月16日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で♀1羽(横山初夫)。◇12月19日、三峰山で♀3羽(山岸昭治)。

◇12月23日、秩父市の羊山公園で♀1羽(山岸昭治)。◇12月18日、深谷市の仙元山公園で♀2羽(菱沼一充)。◇12月31日、寄居町の鐘撞堂山で成鳥♂3羽、若♂、♀は多数(田口浩司)。◇1月8日、寄居町の間平緑地公園で♂1羽(堀口芳嗣)。

アカハラ ◇12月30日、熊谷市大麻生の野鳥の森で1羽(菱沼一充)。

シロハラ ◇12月18日、熊谷市大麻生の野鳥の森で1羽(菱沼一充)。◇12月31日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(田口浩司)。

キクイタダキ ◇12月30日、深谷市の仙元山公園で多数(菱沼一充)。

カラ類(混群) ◇1月1日、寄居町の鐘撞堂山でシジュウカラ、エナガ、ヤマガラ30羽以上の混群(田口浩司)。

エナガ ◇12月12日、秩父市美の山で数羽(山岸昭治)。◇12月26日、熊谷市大麻生の野鳥の森で4羽(菱沼一充)。

ゴジュウカラ ◇12月19日、三峰山で1羽(山岸昭治)。

ツリスガラ ◇12月24日、戸田市道満のさきたま大橋横のアシ原で♂1羽(高橋達也)。◇1月9日、戸田市道満の荒川河川敷で8



(アオジ 宇賀神若人)

羽(駒崎政雄、細井要)。

メジロ ◇12月15日、川口市並木元町の自宅2階の植え込みのバラの木で1羽。「チーチー」とうるさい鳴き声で気づく。いつも1月に入ってから我が家に来るので、ずいぶん早い訪れだと思う(出戸真佐子)。

コジュリン ◇12月4日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で1羽(高橋達也)。

ミヤマホオジロ ◇12月11日、秩父市の羊山公園で♂2羽(山岸昭治)。

アオジ ◇11月23日、寄居町の鐘撞堂山で10羽以上の群れ(田口浩司)。

ベニマシコ ◇11月23日、北本市石戸宿の自然観察公園で♂1羽。しばらく姿を見せなかったが12月23日にまた現れた。(園田恵子)。◇12月11日、秩父市の羊山公園で♂2羽♀1羽(山岸昭治)。◇12月31日寄居町の鐘撞堂山で♂♀各1羽(田口浩司)。

ウソ ◇12月19日、三峰山で鳴き声を聞く(山岸昭治)。◇12月31日、寄居町の鐘撞堂山で4羽(田口浩司)。

イカル ◇12月20日、飯能市下畑の成木川周辺で37羽(藤森三治・恵美子)。

表紙の写真

ネイチャーフォトコンテスト 1993 入選作

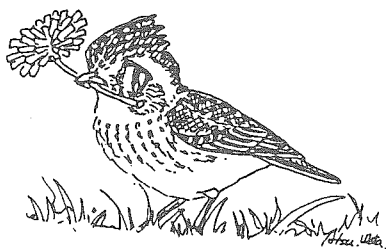
コサギ(サギ科)

逆光に水面が輝くとき、コサギの舞が始まる。右に左に、華麗なるフラメンコダンスが

続く。時は春。夕照の午後。

町田 好一郎(本庄市)

行事あんない



(渡辺 敦)

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：4月3日(日)

集合：午前8時30分 自然観察公園駐車場

交通：JR高崎線北本駅西口よりリーダーの指示に従ってタクシーに分乗して下さい。(午前8時15分ごろから)

担当：岡安、榎本、内藤、吉原、関口、永野(安)、永野(京)、渡辺(光)

見どころ：小鳥達のまだたどたどしくもせいっぱいのラブソングをBGMに、桜の名所を巡ります。ぜひお弁当の用意を。キツツキの仲間とベニマシコにも期待!

川口市・差間探鳥会

期日：4月3日(日)

集合：午前9時 JR武蔵野線東浦和駅前

解散：東浦和駅近くのグラウンド

担当：手塚、伊藤、笠原、田口

見どころ：旅立ち間近のユリカモメ・カシラダカの頭は夏羽でまっ黒。ツバメは大空に舞って、桜も満開。お花見もいっしょに楽しめます。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：4月10日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車

担当：菱沼(一)、森本、関口、菱沼(洋)、斎藤、塚本、中島(章)、小池、和田、石井(博)

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日。参加費は一般100円。会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会埼玉県支部”の旗か、青い腕章をつけた担当者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

見どころ：夏鳥到来!ツバメやイワツバメが大空に舞い、ツグミは帰る準備で大忙し。大麻生でニウナイスズメが見られるチャンスは、この時期だけです!

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：4月17日(日)

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口(集合後、バスで現地へ)

午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、渡辺(周)、手塚、笠原、田口、岡部、嶋田、倉林

見どころ：見沼の田圃に冬鳥はいつまでいるのかな!夏鳥はコチドリ・茶色頭のユリカモメ、渡りの途中のシギ・チドリ達。4月は新入生の季節、新鮮なビグナーを誘ってお出かけ下さい。

浦和市・秋ヶ瀬探鳥会

期日：4月24日(日)

集合：午前8時 JR浦和駅西口バスロータリー(集合後、バスで現地へ)

担当：福井、楠見、草間、伊藤、笠原、嶋田、羽石、小林(み)、倉林

見どころ：この時期秋ヶ瀬はすばらしい。鳥種も多く色とり鳥。夏羽のアマサギ・カワセミ・キジ・キビタキ・ムナグロ等々。役者に不足はありません。

シギ・チドリ類県内一斉調査

期日：4月29日(金・祝)

埼玉県支部では、春と秋の2回、独自にシギ・チドリ類の県内一斉調査を行っています。とくに下記の地点では、より多くの会員の参加・ご協力をお願い致します。

◆秋ヶ瀬（浦和市・大宮市）

集合：午前9時30分 大久保浄水場の北西角
近くの土手の上、水門のあたり。

担当：石井 智

解散は昼頃の予定。調査のため参加費は不要です。雨天でも行きます。

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：4月30日（土）

集合：午前9時20分 JR高崎線北鴻巣駅前

解散：県立さきたま資料館前、正午ごろ

担当：内藤、岡安、榎本、逸見、関口、和田、石井（博）

見どころ：『埼玉見て歩き・東北版』コース第2弾、駅から武蔵水路ぞいに北上するさきたま緑道（約5km）を歩き、古墳公園を訪ねる青空満喫探鳥会です。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：4月30日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局 108号室

野鳥写真クラブ定例会

とき：4月30日（土）午後2時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

川越市・西川越探鳥会

期日：5月4日（水・祝）

集合：午前9時 JR川越線西川越駅前

交通：JR川越線大宮駅8:34発に乗車

担当：石井（幸）、長谷部、三田、柳原、小野、山本、中村（祐）、池永

見どころ：薫風5月の好季節、バードウィークはのんびりと、カワセミや渡りのシギ・チドリを探してみませんか。

千葉県・谷津干潟探鳥会

期日：5月5日（木・祝）

集合：午前10時 JR京葉線南船橋駅前

交通：JR武蔵野線 武蔵浦和9:04、南越谷9:17発に乗車

担当：杉本、佐久間、中村（治）

見どころ：ラムサール条約締結から1年たちました。東京湾に残されたシギ・チドリの見所谷津干潟も赤い夏羽で華や季節です。楽しみにして来て下さい。

東京都・三宅島探鳥会（要予約）

期日：5月13日（金）夜行～15日（日）

集合：13日20時 JR山手線・京浜東北線浜松町駅（東京駅寄り改札口）

帰着：東京港に15日19時20分頃の予定

費用：18,000円の予定（1泊3食、往復船賃、保険料など）、他に島でのバス代若干

定員：25名（先着順、県支部会員優先）

申込み：往復葉書で榎本秀和

まで。乗船名簿記入のため、住所・氏名・年齢・性別・職業・電話番号を必ず明記して下さい。

担当：榎本、岡安、伊藤

見どころ：例年より3週間遅らせての「島と海と鳥の旅」。島の鳥にどんな違いが見られるか楽しみです。帰りの船上探鳥もおおいに期待しましょう。

注意：13日は船中泊、宿は男女別相部屋です。

栃木県・奥日光探鳥会（要予約）

期日：5月21日（土） 日帰り

集合：午前7時 大宮駅東口あさひ銀行前

交通：貸切りバス利用

費用：7,000円の予定（交通費・保険料等）

定員：35名（先着順、県支部会員優先）

申込み：通常葉書に探鳥会名、住所、氏名、年齢、電話番号を明記して中島康男
まで

担当：中島（康）、松井、福井、草間

見どころ：キビタキ・ノビタキ・ホオアカ・ムシクイの仲間など夏鳥がいっぱい。

風かおる戦場ヶ原を中心に、約6km歩きます。足拵えはしっかりと。

5月8日（日）熊谷市・大麻生定例探鳥会
100回目の記念探鳥会です。乞うご期待

6月4日（土）浮島湿原探鳥会（要予約）と

6月4日（土）～5（日）戸隠飯綱高原探鳥会（要予約）は5頁に掲載されています。

行事報告



12月5日(日) 北本市 石戸宿

参加: 57人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ マガモ コガモ
オナガガモ ワシタカSP コジュケイ キジ
クイナ キジバト アカゲラ コゲラ ハクセキ
レイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウ
ビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジ
ロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ
ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス
ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 早く来
た人は、集合場所でアカゲラをじっくり観察で
きました。“早起きは三文の得”です。愛らしいベ
ニマシコを初めて見た人、ご感想はいかがでした
か? 昼食時にオオタカが出現しました。これから
は、お弁当持参で参加を! 逆光の中のアキノノゲ
シが印象的でした。(岡安征也)

12月11日(土) 浦和市見沼ヘルシーロード

参加: 28人 天気: 晴一時雨

カイツブリ カワウ ゴイサギ コサギ カルガ
モ コガモ オナガガモ ユリカモメ シラコバ
ト キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ
セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジ
ョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ
メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワ
ラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシ
ボソガラス ハシブトガラス (32種) いつもいい天
気のこの探鳥会。真っ白い富士こそ見られな
かったが、代りとはばかりに、シラコバトが
かわいい姿をジックリ見せてくれ、参加者を喜
ばせた。国昌寺、総持院、鷺神社などを巡る
この探鳥地は、自然と人間の生活が調和した
リラックスできるいい場所だと来るたびに
思う。(伊藤芳晴)

12月12日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 45人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ マガモ
オナガガモ コジュケイ キジ イカルチドリ
ハマシギ イソシギ キジバト カワセミ コゲ

ラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロ
セキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビ
タキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ
ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シ
メ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブ
トガラス (35種) 好天に恵まれた。土手を下り
ると、足元のくさむらからキジが飛び立ち、一
同びっくり。畑では、セキレイ3種がチョコ
チョコ歩いていていた。野鳥の森の日だまり
で、ゆっくり時を過ごす。シジュウカラやメ
ジロの声に耳を傾け、小道に出てくるアオ
ジを探す。河原では、カワセミが出てくれ
て盛り上がった。(菱沼一充)

12月12日(日) 所沢市 狭山湖

参加: 27人 天気: 晴一時曇

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカ
イツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ
ギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ
オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キ
ンクロハジロ ホオジロガモ トビ オオタ
カ ハイタカ キジバト アオゲラ コゲラ
ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ
タヒバリ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジ
ョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス
シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ
カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソ
ガラス ハシブトガラス (42種) 狭山湖の
堤防に出ると風が吹き始め曇ってしまい
とても寒い。ふるえながら湖面を探すと
ホオジロガモの♂♀がきれいな姿を見
せてくれた。対岸付近のカモが一斉に
飛び立ったので何かと目をこらすと、
湖面近くの木にオオタカがいた。別の
枝に移ったとき枝が折れ、あわてて松
の木に移り、はずかしかったのか顔を
隠してしまった。(三田長久)

12月19日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 81人 天気: 曇

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カ
ルガモ コガモ トモエガモ ヒドリガモ
オナガガモ ホシハジロ ミコアイサ
オオタカ コジュ

ケイ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ
 ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジ
 ョウビタキ ツグミ ウグイス キクイタダキ
 エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカ
 ラ メジロ カワラヒワ シメ スズメ ムクド
 リ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 曇
 ってはいたが、風もなく気持ちよいスタート。シ
 ジュウカラ、コゲラ、エナガ、メジロ等の混群に
 キクイタダキが数羽混っていたのを数回見られ
 た。ただし、我々先頭集団は、真下から見上げる
 状態で、キクイタダキまでは、見られなかった。
 しかし、初参加者の確認もせずにスタートしてし
 まい、「つまらない」思いをされた方がいらした
 のではないかと、反省しています。(吉原俊雄)

12月19日(日) 浦和市 三室地区

参加: 46人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ
 オナガガモ キンクロハジロ ホシハジロ キジ
 タゲリ タカブシギ イソシギ タシギ ユリカ
 モメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハ
 クセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨド
 リ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シ
 ジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ ア
 オジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハ
 シボソガラス ハシブトガラス (37種) 年の最後
 の三室は、晴天好日。タゲリが冬空に舞いました。
 今年も都会の外れに心暖まる人々の集いがありま
 した。特に珍しい鳥は出ないけれど、定番の鳥が
 季節ごとにやって来ます。来年も楽しく鳥見とい
 こう! (楠見邦博)

12月25日(土) 『しらこぼと』袋詰め会

ボランティア: 10人

荒木恒夫、石井幸男、海老原教子、海老原美夫、
 角田真喜子、小林孝太郎、佐久間博文、篠原東彦、
 松元達夫、谷津弘子

1月3日(月) 浦和市 さぎ山記念公園

参加: 55人 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ
 オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンク
 ロハジロ オオタカ チョウゲンボウ コジュケ
 イ キジ コチドリ クサシギ タシギ キジバ
 ト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキ
 レイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ

ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カ
 シラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ
 シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシ
 ブトガラス (38種) いつもの柿の木を中心に、ツ
 グミの群れがわんさか。浦和じゅうのツグミが全
 部ここに集まっちゃったような有様。どうなっ
 ているのだろう。キジが見事な飛翔を見せてくれて、
 これは記事になるかと話しながら歩いていたが、
 年々少なくなっていたタゲリが今年ついにゼロと
 なった方が重要だ。探鳥会終了後、いつも通り持
 ち寄った酒や料理で、ほろ酔い懇親会。支部事務
 局での二次会も例年通りでした。(海老原美夫)

1月9日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 63人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ
 ギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ
 オカヨシガモ オナガガモ ホシハジロ キンク
 ロハジロ カワアイサ イカルチドリ クサシギ
 イソシギ ユリカモメ キジバト コゲラ ヒバ
 リ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ
 タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグ
 ミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラ
 ダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムク
 ドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (40種)
 ポカポカと暖かい絶好の探鳥会日和で、参加者も
 63人と大盛況。お目当てのコハクチョウは100羽
 弱と一段と増えたようだ。ここでは珍しいカワア
 イサも4羽見られた。鳥合わせの時、謎のヒタキ
 ?を見た人が数名いて、帰りにその場所で少し粘
 ったが、結局分らなかった。(菱沼一充)

1月23日(日) 川口市 差間

参加: 25人 天気: 晴

カワウ ゴイサギ コサギ カルガモ チョウゲ
 ンボウ キジ ユリカモメ ウミネコ キジバト
 コミミズク ハクセキレイ セグロセキレイ ヒ
 ヨドリ モズ ツグミ シジュウカラ ホオジロ
 カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムク
 ドリ ハシブトガラス (23種) コミミズクを期待
 してコースを変更。見沼代用水西縁沿いを歩いた。
 広大なアシ原を前に寒さを我慢して待つ。強い北
 風の中、突然目の前に現われ、チョウゲンボウに
 追われてフワフワとアシ原の中へ消えていった。
 わずかな時間だが近くを飛んでくれてよかった。
 本当によかった。(手塚正義)

連絡 中長

●野鳥写真を募集します

今年は埼玉県支部発足10周年に当たります。その記念事業として、『(仮称)埼玉野鳥見て歩き』の出版を計画しています。

県内で見られる基本的な野鳥を紹介し、どこに行ったらその野鳥に会えるかを案内するもので、編集委員会を組織して会議を重ね、本年10月の刊行を目指しています。

その本に使用する野鳥の写真は次のとおり募集します。

[応募資格] 埼玉県支部会員

[対象鳥種] カイツブリ・カワウ・ヨシゴイ・ゴイサギ・アマサギ・ダイサギ・チュウサギ・コサギ・アオサギ・コハクチョウ・オシドリ・マガモ・カルガモ・コガモ・ヒドリガモ・オナガガモ・ハシビロガモ・ホシハジロ・キンクロハジロ・ミコアイサ・オオタカ・ツミ・ノスリ・チョウゲンボウ・コジュケイ・キジバン・コチドリ・ムナグロ・タゲリ・タカブシギ・イソシギ・タシギ・ユリカモメ・コアジサシ・シラコバト・キジバト・アオバズク・ヤマセミ・カワセミ・コゲラ・ヒバリ・イワツバメ・キセキレイ・ハクセキレイ・セグロセキレイ・ヒヨドリ・モズ・ジョウビタキ・ノビタキ・ツグミ・ウグイス・オオヨシキリ・セッカ・シジュウカラ・メジロ・ホオジロ・カシラダカ・アオジ・カワラヒワ・シメ・ムクドリ・オナガ・ハシボソガラス・ハシブトガラス(65種)

[応募方法] キャビネ(2L又は1L)サイズのプリント(光沢仕上げのみ。絹目仕上げ不可)裏面に、鳥種名・撮影者の住所・氏名・電話番号を書いた紙を貼り、支部事務局まで。
[応募期限] 5月末日

応募プリントはお返しできません。必要な場合は原版をお送り願うこともありますが、その原版はお返しします。

ネガプリント、ダイレクトプリント、どちらでも可。1種の鳥に複数の写真を使うこともあります。いわゆる図鑑向きの写真だけでなく、雰囲気のある写真も。

撮影地は県内に限りませんが、状況から明らかに県外の撮影と分かるものは不可。1人何点でも応募可。過去の当支部のフォトコンテスト応募作品や、当支部出版物等への掲載作品は可ですが、他の出版物などで発表されたものは不可。

未定ですが、今年は秋のコンテストはないかもしれません。こちらの募集にご協力をお願いします。

●4月の土曜日当番(2時~6時)

- 2日 中島康夫 楠見邦博(普及部会議)
- 9日 杉本秀樹 山本真貴子
- 16日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)
- 23日 森本國夫 高松 格(校正の日)
- 30日 袋づめの会(1時から)

●会員数は

3月1日現在 2,370人です。

活動報告

- 2月5日 普及部会議。
- 2月12日 『しらこぼと』3月号編集作業。
- 2月19日 3月号校正作業(海老原美夫・大武昭雄・笠原伸子・工藤洋三・桜庭勇)。
- 2月19日~20日 本部評議員会議に出席(海老原)。
- 2月20日 役員会議(司会・福井恒人、関東ブロック会議決議文案・福井鳥獣保護員の留任推薦・探鳥会予定・その他)。『野鳥見て歩き』第2回編集会議。
- 2月26日 袋づめの会に、本部職員新人研修の一環として新人職員ら参加受け入れ。

編集後記

編集長が遅れて来ての手土産が「まんじゅう」。おまけに渋茶まで入れてくれました。明日は晴れるというのに。(内藤)

編集長に入れていただいた渋茶は、たいへんけっこうなお味でした。あと30分ほどしたら、今度は冷たいビールとヤキトリなんかをサービスしてくれそうな気がする。(小林)

『しらこぼと』1994年4月号(第120号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 東京9-121130
印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)

再生紙使用